# 一級河川新井郷川（福島潟放水路）河川激甚災害対策特別緊急事業

**受賞機関　新潟県新潟土木事務所**

## はじめに

福島潟の流域は、標高T.P.+1.0m前後の低平地帯が広がっており、十数本の河川が潟に流入している。このため、福島潟周辺市町村では、しばしば洪水による湛水被害を受けており、中でも昭和41年の下越水害及び昭和42年の羽越水害では、甚大な被害をもたらした。これを契機に、新井郷川流域での抜本的治水対策として、昭和43年に「新井郷川恒久的治水対策」が策定され、その対策の１つとして福島潟放水路が計画された。

昭和44年度から福島潟放水路事業に着手してきたが、平成10年８月の集中豪雨により氾濫面積6,157ha、床上浸水380戸、床下浸水1,845戸、一般被害額174億円という大規模な水害となった。

このため、福島潟放水路の早期完成による再度災害防止を目的として、平成10年10月９日に「河川激甚災害対策特別緊急事業（激特）」が採択され、平成14年度完成を目指し整備を進め、平成15年３月16日に通水した。

## 事業の概要

事　業　名：福島潟放水路事業
全体延長：L＝6,740m（川幅100m）
計画流量：Q＝300㎥/s（治水安全度１/30）
事業期間：昭和44年度～平成14年度
（激特・復緊：平成10年度～平成14年度）
事　業　費：480億円（うち河川改修費210億円、
激特費165億円、復緊費105億円）

福島潟放水路全景

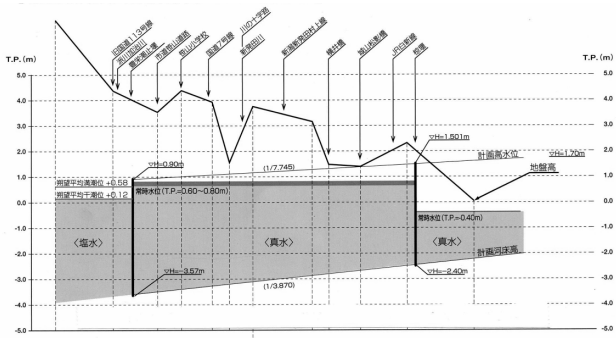
## 事業の特徴

⑴ 環境への配慮

福島潟放水路周辺は地下水位が高く、砂丘上の集落では飲料水及び灌漑用水として地下水が利用されている。また、常時水位T.P.－0.4mの福島潟から朔望平均満潮位T.P.+0.58mの日本海に向けて開削するため、海水の浸入・地下水位低下・地盤沈下等の周辺環境への配慮が必要であった。

①海水への対応
・放水路河口に潮止堰（ゴム引布製起伏堰）を設置し、日本海からの海水浸入防止を図る。

②地下水位低下への対応
・椋堰（ゴム引布製起伏堰）を設置し、潮止堰と併せて、放水路内水位をT.P.+0.6～0.8mに維持する。
・新発田川との平面交差地点に浦ノ入水門を設置し、放水路内水位の維持調整を行う。
・多孔質な護岸ブロックを使用し、放水路内水位を周辺地下水位に追従させる。




福島潟放水路縦断図（河川中心線方向）

⑵ 事業間協力

・掘削に伴い、大量に発生する土砂の有効利用（高速自動車道、その他道路事業、土地区画事業）
・放水路流入先である港湾事業者との事業連携

環境への配慮、事業間協力、コスト縮減等を図りながら、無事、通水することができた。